

# ワーキング部会報告書

第3部会	C班	開催日	平成26年9月10日(水)	会場	さいわいプラザ6階 604会議室
テーマ	小1・小4の壁を打破しよう ～放課後児童クラブと延長・預かり保育の連携と必要性～				
内 容					
◆現状における課題に対する改善策を探る					
◎よりよい児童クラブの運営のために……					
・児童クラブの利用の枠組みを明確にする。(入会規定・きまりの明確化、申請書を詳細化)					
・地域の人材を確保するとともに、うまく活かすコーディネーターの育成(実例として希望が丘あそびの城がある。)					
・児童クラブ未整備地区においては、スクールバスの利用ができるとうい。					
・児童クラブの活動に保護者・ボランティアの力を活用すべき。コミセン行事との連携・交流を深める。					
・若い世代に担い手になってもらい、長く勤務してもらうためにも児童厚生員の賃金アップが必要。					
◎配慮が必要な児童への対応					
・配慮が必要な児童への対応については、職員に対して研修の充実とアドバイザーの配置が必要。 (専門の職員が巡回指導や心のケア、子どもとの接し方などをアドバイス・相談にのる。)					
・必要な情報を確保し、共有する仕組みが必要。 (すこやかファイルの活用、入会時の調査票の詳細化、学校・児童クラブ・保護者のケース会議の実施)					
◎時間外の運営について					
・時間外の対応は必要であるが、預けられる子どもの気持ちや親と子どもと一緒に過ごす時間がさらに減ることはよいことでない。					
・時間外の対応については、シルバー人材センター等を活用し有料で実施するのがよいのではないか。					
・時間外の運営に関しては、企業への理解を求めることが必要である。					
◎有料化について					
・時間外の延長と併せて有料化を検討してよいのでは……					
・有料のクラブと無料のクラブの役割を分ける。					
◎児童厚生員の賃金について					
・児童厚生員の賃金をアップさせる必要がある。					